

チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	カーボンニュートラルの実現に向けた都市と地方との連携	東京都千代田区
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	つながラジオ		

（注1）地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名 （公開）	ラジレジオン		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 （公開）	4 名		
代表者 （公開）	古畑結基		
メンバー （公開）	浅川紗穂、阿部裕紀、遠藤梢子		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。
必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいとなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

- ・エネルギー課題、脱炭素という短期的には利益が見えない物に対して人々が行動できていない現状
- ・「地方は電力を作る場所」、「大都市は電気を消費する場所」という現状

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます><アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

>
<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が
必要です>

「一人一人が環境について知るべきだ」とよく言われるけれど、一人で知るのって難しい
ならば場所を超えて、出会えるはずのなかった人たちと、知っていけばいい

音から広がる、私たちの持続可能な未来
「自分事」が難しいのなら「友だち事」だっていいじゃないか

この企画は、環境への第一歩をうみだし、いずれは環境にとどまらない人々の繋がりをもたら
し、これから何十年何百年とその繋がりが続いていくことを目指します。

1. 課題背景、目的

今回のアイデアでは、東京と地方の学生が真っ先に積極的な交流を得て、東京と地方との連携を深め、
世代や場所による価値観に関係なく、みんなで「カーボンニュートラルの実現について協力し合える
社会」を目指します。

「エネルギーってなんかよくわかんない」「脱炭素って結局何なの？」

環境やエネルギーの問題に対して関心が高いと言われている私たち” Z 世代”（大学生、高校生）で
も、上記のような声を当たり前のように耳にします。

しかし世界を見渡すと各国ではカーボンニュートラルに向けて大きく舵が切られています。日本では
2020年10月に政府が世界に向けて「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。ここでは可
能な限り再生可能エネルギーや水素を活用して生活してゆく社会を目標としています。この「2050年
カーボンニュートラル」を達成するために「課題を早く解決したい」「少しでも課題を減らしたい」と
いうのが私たちの気持ちです。

真っ先に解決したい課題、それは都市と地方の人たちが同じタイミングでカーボンニュートラルに
関する情報を得ることです。なぜなら都市と地方のグリーントランスフォーメーション実現すること
を2030年、2050年までの長い活動を支えるためには「情報」が礎となるからです。2011年に起こっ
た福島第一原発の事故は記憶に新しく、その時強く意識したのは、「地方で作られている電力の多くを

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

消費しているのは東京にいる私たち」ということです。

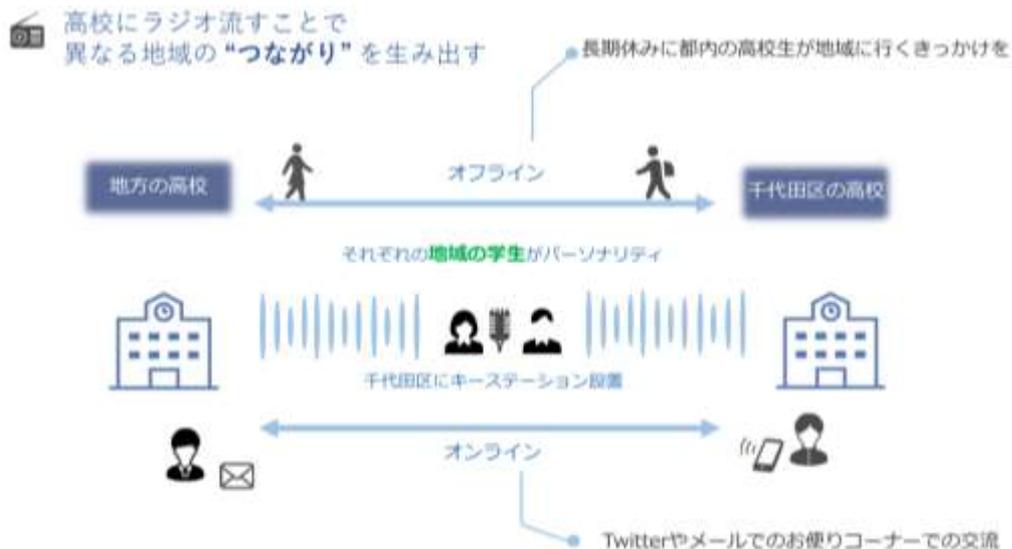
千代田区の課題について検討するとき、そのことを一番考えました。今、改めて都市と地方との連携が双方の地域の持続可能性を高めてゆくことを実現しなければならないと考えます。

このアイデアを通じて千代田区の課題である「カーボンニュートラルの実現に向けた都市と地方との連携」をします。



2. 「何を」するアイデアか

千代田区内の高校の放送施設を使うことで、ラジオを含めた音声コンテンツを提案します。



段階としては、①千代田区内における活動やコンテンツ制作、②地方各地の高校と共同でのコンテンツ制作、③地方各地の高校とお互いの土地を行き来する、という3段階での実行を考えています。

3. アイデアの内容（「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するか）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

①第1段階『千代田区内における活動やコンテンツ制作』

○エネルギー課題や脱炭素課題の解決に向けて貢献している千代田区内に勤務する行政、企業、人材、研究者にインタビューをしてそれを校内放送で放送します。また、自分の学校における様々なエネルギーに関する内容、省エネ情報についてなどの放送もします。

- ・誰が：千代田区内の高校生、教員やサポートの大学生、インタビュー先の方々
- ・誰に対して：千代田区内の高校生

・いつ、どこで：朝礼、お昼休み、放課後などに自分の学校や地域、企業のコミュニケーションスペースで

・どのようにして：高校内の放送施設を利用することで、校内に向けて情報を発信します。

・コンテンツの例：「行政、企業、人材、研究者へのインタビュー」、「省エネの構内呼びかけ」、「千代田区内エネルギー貢献企業ランキング」、「weekly エネルギーニュース」、「カーボンニュートラルクイズ」、「青春はエネルギーだ!!（ラジオコーナー）」など

②第2段階『地方各地の高校と共同でのコンテンツ制作』

○千代田区内だけでなく、地方とも共同でしか作れないコンテンツを制作していきます。例えば、地方の高校生に地元の発電施設、行政、企業、人材をインタビューしてもらいます。また、校内放送のコンテンツを参加校が持ち回りで作成することで自身の学校や地域の魅力を互いに知れます。地方各地の高校生については、まずは千代田区の姉妹都市の高校や、エネルギー関連施設がある地域など課題に関わりが深い地域の高校などを想定しています。

・誰が：千代田区内の高校生、地方の高校生、教員やサポートの大学生、インタビュー先の方々

・誰に対して：千代田区内と各地の高校生

・いつ、どこで：朝礼、お昼休み、放課後などに自分の学校や地域や企業のコミュニケーションスペースで

・どのようにして：高校内の放送施設を利用することで、校内に向けて情報を発信します。

・コンテンツの例：「地方にある発電所やエネルギー関連施設へのインタビュー」、「自分の地域の魅力紹介コーナー」、「複数校同時接続ラジオでの交流」など

③地方各地の高校とお互いの土地を行き来する

○関係を深めた地域に実際に勉強や遊びに行きます（お祭りや現地の案内、交換留学など）。

・誰が：千代田区内の高校生、地方の高校生、教員やサポートの大学生、各地域の企業、行政の方々

・誰に対して：千代田区内と各地の高校生

・いつ、どこで：長期休みなどに各地で、また企業様の交流スペースなどをお借りします。

・どのようにして：各地域に実際に赴く。地域交流祭りなどはカーボンクレジットの食材や、地元の名産品などを使った屋台を企画します。また、コミュニケーションスペースなどを借りてラジオ放送も継続して行います。

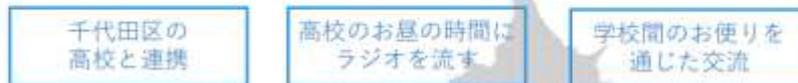
2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

・コンテンツの例：「互いの地域の特産物などを使ったお祭り」、「互いの高校や地域の現地での紹介案内」など

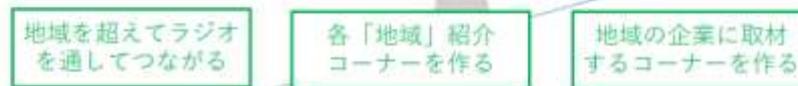
【千代田区内でつながる】

区内の高校間でラジオを流す



【千代田区を超えてつながる】

地方の高校に連携を広げ、区内を超えて、都市と地方の高校でラジオを流す



【つながりをかたちにする】

都市の高校と、地方の高校生が、実際にラジオを流した高校生に会いに訪れたり、現地を訪問する



Blank area for content.

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

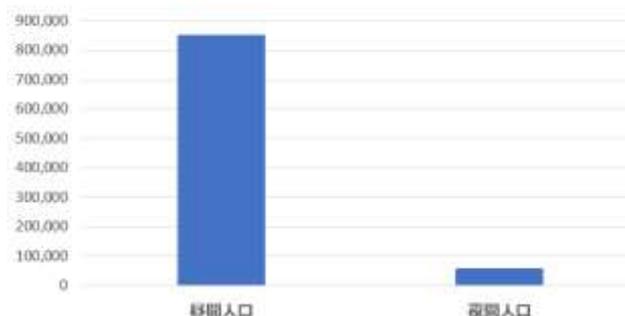
<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

①千代田区の昼間人口、夜間人口

千代田区は昼間人口が夜間人口と比べて圧倒的に多い。特に特徴的なのは大丸有地区（大手町、丸の内、有楽町）です。昼間人口は約 28 万人おり（一社大手町・丸の内・有楽町地区町づくり協議会資料より）、同地区はほぼ全て事業者によって占められているため、住民はほとんどいません。そのことから千代田区について考える際に区民以外の就業者についても考える必要があります。

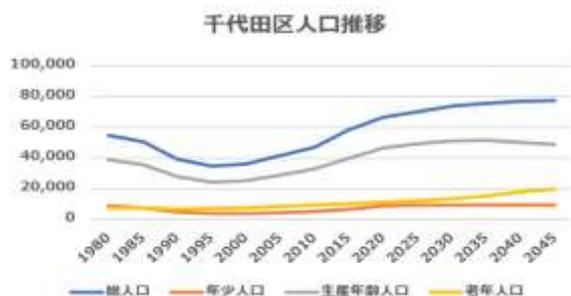
千代田区昼間、夜間人口比較（人）



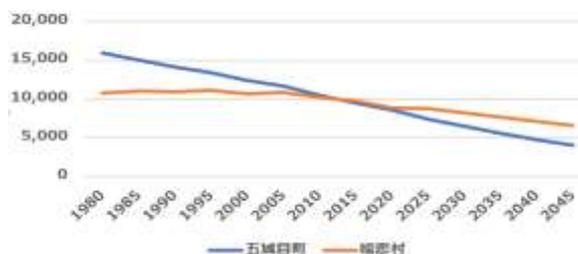
※上記のグラフは千代田区ホームページより作成、閲覧日は 2022 年 12 月 17 日

(<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/gaiyo/yokoso/ichi.html>)

②千代田区人口、姉妹都市の人口



千代田区姉妹都市の総人口



右の図のように、総人口の数は上昇傾向です。年少人口については横ばいをたどっています。また姉妹都市に目を向けると人口減少の一途をたどっています。

※両グラフとも RESAS からのデータを用いて作成

(<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/kankyo/ondanka/co2.html>)

③千代田区の高등학교数

千代田区内の公立、私立高校は合わせて 18 校あります。千代田区内の昼間人口と夜間人口の比率は先ほど示した通りですが、高等学校についても区外から通う生徒が多くいるようです。

4. 11 公・私立高等学校

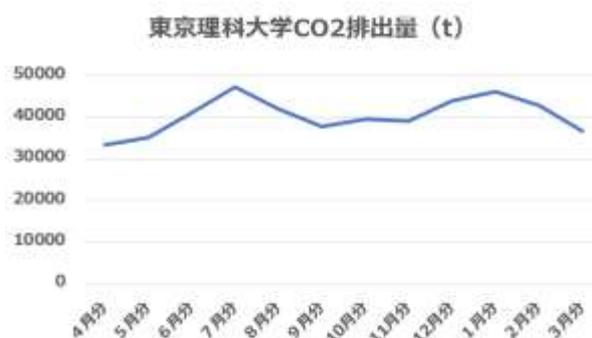
(各年5月1日現在)

年次	区分	公立			私立				
		学校数	生徒数		教員数 (本務者)	学校数	生徒数		教員数 (本務者)
			全日制	定時制			全日制	定時制	
平成 29 年		2	979	697	120	16	9,029	-	586
30		2	977	635	123	16	8,942	-	588
令和 元年		2	971	591	121	16	9,054	-	606
2		2	964	576	120	16	9,549	-	620
3		2	966	510	122	16	9,569	-	656

資料: 学校基本調査報告

④千代田区、区内の大学のエネルギー排出データ

千代田区と東京理科大学の神楽坂キャンパスの CO2 排出量は下の図のようになります。最も身近な大学のデータを考えました。



※千代田区の CO2 排出量について

千代田区ホームページ、閲覧日 2022 年 12 月 17 日

(<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/kankyo/ondanka/co2.html>)

※東京理科大学の CO2 排出量については東京理科大学事務かからのデータを元にグラフを作成

私たち学生自身も区外からの通学者なので千代田区の傾向を検討するにあたり、最も身近なエネルギー（電力）についてキャンパスのデータを参考にしました。

これらのデータを考えると、千代田区在住の人々だけでは「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2021～2050 ゼロカーボンちよだ〜」(<https://www.city.chiyoda.lg.jp/documents/27420/soan-2.pdf>) を達成することは非常に難しいことが容易に予測できます。そのためすべての関係人口を結ぶ情報プラットフォームが存在すれば、人々の行動を変えることができるのではないかと考えました。

--

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

・千代田区内の高校生、各地方の高校生、それをサポートする教員と大学生、行政機関
「(1) アイデアの内容」の項目で述べたように、このアイデアの主体は高校生である。教員は日々の校内放送など、大学生は学校間の交流や地域間の交流のサポートなど全体の取りまとめを地域間で取り組んでいきたいと考えています。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）



千代田区内の高校に通う高校生、教員

〈現実的な調達方法〉

千代田区役所の方に働きかけてもらうよう、大学生が各学校にお願いしに行きます。また高校生については放送委員を中心に協力してもらいます。

・各地方の高校生、教員、地域の人々

千代田区の姉妹都市の人々に対しては、千代田区役所の方々にサポートしていただきます。姉妹都市ではない場合は大学生が地方までお願いしに行きます。

・インタビュー先の企業の方々

千代田区役所のエネルギーに関する部署の方や、メンバーの交友関係をたどってお願いしに行きます。また企業に対しては高校生と大学生と一緒にお願いしに行きます。



・ラジオ配信機材

マイク、ミキサー、PC、スマホなど

・ラジオ配信機材

マイク 15,000円

ミキサー 30,000円

PC、スマホなど 40,000円

※校内放送の場合は無料。



カネ

コミュニケーションスペース利用料金

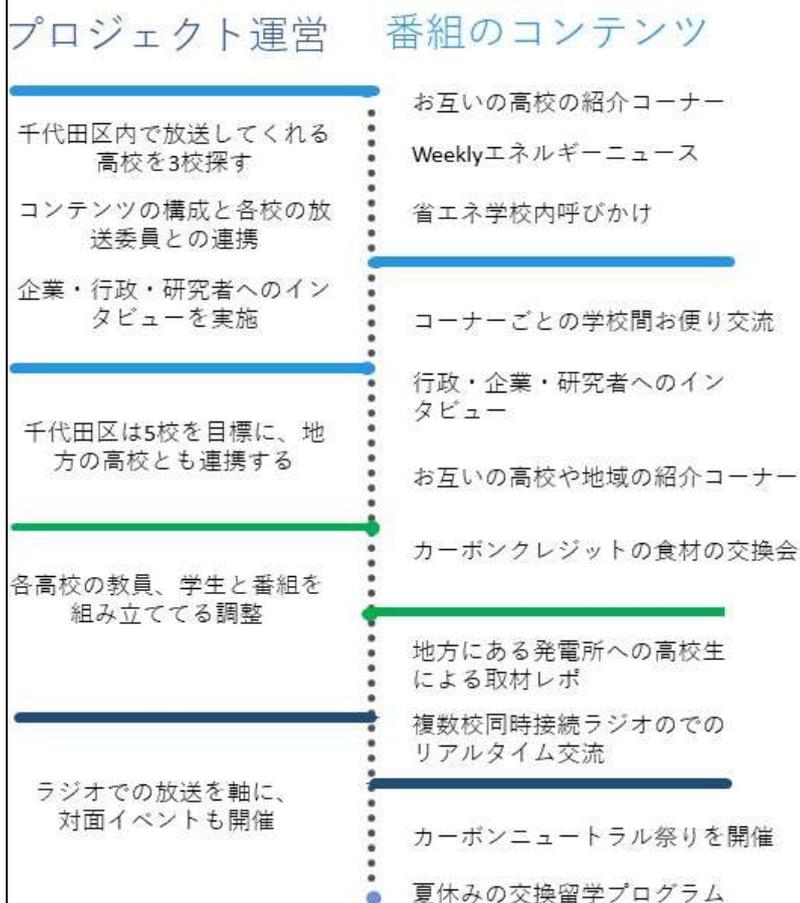
地域の施設：5,000円（4時間）

企業、大学の施設：3×3 Lab Future

- ・地方に実際に行く場合のお金
- 一人当たり2泊で5万円を想定（企画に賛同していただける企業からの協力を依頼する）

3. 実現に至る時間軸を含むプロセス

つながラジオプロジェクト 進行予定表



つながりをカタチに

〈第1段階〉

まずは千代田区内で興味を持って実行してくれる学校を3校ほど探します。それと同時に大学生と教員、千代田区役所職員が、千代田区内の企業、人材、行政担当、大学の研究者などをお願いをしに行きます。（約4か月）

〈第2段階〉

千代田区内で開催してくれる高校を5校まで増やす。それと同時に各地方自治体に千代田区役所の方々のお力をお借りしながら依頼を出します。（約4か月）

〈第3段階〉

お祭りや実際にお互いの地域に赴くことについては長期休みを利用します。期間は高校によって行事予定などもあると思うので4か月と想定します。

〈第1段階〉→〈第2段階〉→〈第3段階〉のループを約1年間回していきたいです。これを2030年まで続けることで2050年カーボンニュートラルと統合的な2030年目標に向けて貢献できること、世代や場所による価値観に関係なく、皆がエネルギーについて協力し合える社会を目指します。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

Blank area for content.

